オリガミアンだより

第 41 号

２０２１年４月９日発行

長い休講期間はぜひともマジック・ローズ・キューブ（薔薇の花）マスターを

皆様のご協力のおかげで 2020 年度総会を４月６日に無事、終了することが出来ました。ありがとうございました。資料の性質上、字ばかりとなりましたが、お許しください。

総会の後の定例練習では希望の多かった「マジック・ローズ・キューブ」に挑戦。あらかじめ決められたパーツ（花びら用３枚、葉っぱ用３枚）の折り方さえマスターしてしまえば、あとは組み合わせて、花と葉っぱを開けば美しい薔薇の花に変身!!　折り紙マジックとして知られ始めている作品ですが、国内で折ることが出来る人はまだまだ極めて少数派。関西でこれを折れる人はほんの数えるほどだと思います。ここでマスターしておけば近く神戸市内で折り紙製の大輪の薔薇の花がたくさん咲くことでしょう

神戸市は５月５日までコロナ禍による蔓延防止等重点地区に認定されているため、また「ステイホーム」を余儀なくされますが、練習時間だけはたっぷりあります。「マジック・ローズ・キューブ」を完全にマスターしてご家族らを驚かせましょう。「マジック・ローズ・キューブ」は教室再開後に何度も練習します。６日に用事でやむを得ず休まれた方も、これからいくらでも覚えるチャンスがあります。安心して教室に出て来てください。

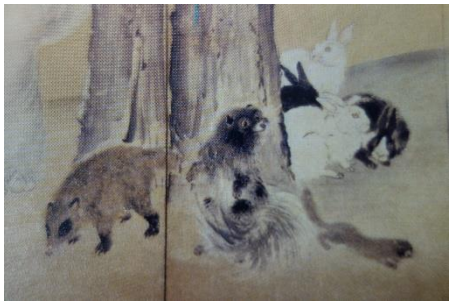
気分転換して目の保養を

以下の３枚は『瑞獣　珍獣』　内山　淳一著　パイ　インターナショナル発行　　から引用　いずれも折り紙教室の練習テーマです。どれも日本の野生動物。可愛いですね。詳しくご覧になりたい方は開設間もない名谷図書館へどうぞ

円山応挙　白狐図

狩人に追われた和泉の国信太（しのだ）の森の白狐が助けてくれた安倍保名のもとに人間の女として現れ結婚。夫婦は一子をもうけたが、やがて正体が知れて古巣に帰ることになったというお話を描いた。愛児に後ろ髪を引かれるような哀しみの姿をとらえている。

円山応挙　群獣図屏風



宮内庁三の丸尚蔵館。狸は欧米にはおらず生息地はユーラシアの東部に限られていたが、なぜか日本で絵に描かれることは稀。この屏風には狸など 19 種 53 体の動物が描かれている。婚礼や長寿などハレの場を飾るための賀の屏風と考えられる。

葛飾北斎　宝珠を搗く月兎

月の中で兎が搗くのは餅ではなく宝珠。白兎が着る赤い上衣から、ある人物の還暦を祝っての作かとも想像される。

ごんぎつね（抜粋＝ラスト部分）

そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十（ひょうじゅう）の家（うち）に出かけました。兵十は物置で縄をなっていました。それでごんは、家のうら口から、こっそり中へはいりました。

そのとき兵十は、ふと顔をあげました。と、きつねが家の中へはいったではありませんか。こないだうなぎをぬすみやがったあのごんぎつねが、またいたずらをしにきたな。

「ようし。」

兵十は、立ちあがって、納屋にかけてある火なわ銃をとって、火薬をつめました。

そして足音をしのばせて近よって、いま戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、ばたりとたおれました。兵十はかけよってきました。家の中を見ると、土間に栗が、かためておいてあるのが目につきました。

「おや。」と兵十はびっくりしてごんに目をおとしました。

「ごん、お前（まい）だったのか。いつも栗をくれたのは。」

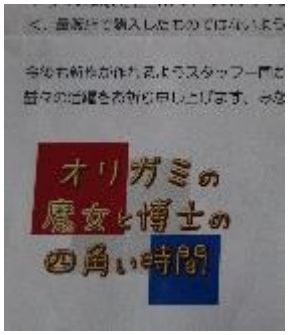
ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は火なわ銃をぱたりと、とり落としました。青いけむりが、まだ筒口からほそく出ていました。

新美南吉　　《出典　『ごんぎつね』　岩波少年文庫》

小さな子どもさんやお孫さんらに読んで聞かせてあげてください。

折り紙がらみの問い合わせに対する答え２件を披露



ＮＨＫ教育テレビで土曜日に「オリガミの魔女と博士の四角い時間」という番組（不定期）があることをご存じの会員も結構おられることでしょう。2021 年２月 21 日には「心のカメラ」と題してカメラを取り上げました。おしゃれな作品なのでぜひ覚えたいと思い、ＮＨＫのホームページで折り図を探しても載っていません。テレビを何度見ても肝心なところは早回し。これでは取り付く島もありません。思い余ってＮＨＫに手紙を書いたところ返事がありました。

１点目は「紹介する作品のほとんどが創作折り紙のため、作家の許諾が必要。折り図を紹介出来るものと出来ないものがあります」とのこと。ちょっと残念。

２点目については「著作権の問題に加え、ドラマが中だるみしないスピード、番組尺との兼ね合いで、どれぐらい制作の過程を紹介するか決めています。ご希望に添えず申し訳ございません」。

要するに折り紙の具体的なやり方を覚えてもらうより、番組全体のイメージとして流しているとのこと。これでは折り工程を具体的に覚えようとする人間には意味がありませんね。せめて作家さんの名前と折り図が掲載されている書名くらい放映してくれたらいいのに、と思いました。

下の写真はやはり折り紙がらみで京都国際マンガミュージアムに問い合わせをした時の返信用封筒。解答はこちらの希望通りというわけにはいきませんでしたが、消印を見てください。令和３年４月５日投函ということで算用数字の「３」「４」「５」がきれいに並んでいて美しいですね。意識して押印したものではなく、こうして偶然得られた実逓便の消印は収集家に喜ばれています。